

公・民・学共創による持続可能まちづくりを通じた復興知人材育成

東京大学大学院新領域創成科学研究科

事業概要

新地町において、地域エネルギーシナリオ作成、住民参加促進、地域状況を伝えるメディア作成や地域活動支援、それらを統合した持続可能まちづくりを、現地拠点 UDC しんちを活用して公・民・学共創により実践する。これにより、復興の状況や内外の社会情勢の変化に順応し、創造的にまちづくりに貢献する復興知人材を育成する。

人材育成目標

時間の経過とともに変化する地域の復興状況や、地域の人の心情や意向を丁寧に理解するという地域に関わる観点と、国内外の社会情勢や地球規模での目標を適切に把握し、地域の実情や目標を考慮しつつ、地域課題の解決や地域の将来ビジョン・施策を提案するという観点を習得し、それを実践することができる人材を育成することを目標とする。

人材像

- 全体的観点
- ・復興過程で、地域の人の心情や意向を丁寧に理解する行動ができる人材
 - ・地球規模の目標や国内外の社会情勢を把握し、地域の目標を考慮しつつ、地域課題の解決に向かう構想を提案できる人材
 - ・記憶が薄れることへ想像力を持ち、地域に寄り添い、将来像を描ける人材
 - ・関係者と共創し、将来ビジョン構築や実現方策を考案、活動できる人材
- 事業波及観点
- ・地球規模の目標の概念と、それに対し地域が取り組む意義を理解する人材
 - ・地域を再認識し、地域の内側から持続可能なまちづくりを実践する人材

達成目標

- ・地域復興・将来社会デザインにかかわる正規科目の開講
 - ・教員・研究員の参画（連携する大学等も含む）
- 【大学院生】現場の学びを通し、修了後もグローバルな状況を踏まえ、地域の実情を知り、地域の課題を解決する人材を輩出する
- 【地域】地域を再認識し、主体的に持続可能まちづくりに関わる人材を増やす
- 【教員・研究員】継続して地域に関わり、大学院生・地域と共創する人材を増やす

事業Ⅰ エネルギーの観点から持続可能まちづくりのシナリオ作成支援

日本の 2050 年カーボンニュートラルや福島県の 2040 年再生可能エネルギー 100% を題材に、エネルギーの観点からまちづくりをどう変化させるべきかを議論し、シナリオ作成に必要な知見を生み出す。

再生可能エネルギーや省エネルギーの導入可能量の推測

- 「環境システム学輪講」の実施
- 太陽光・風向風速：町内 4 地点で日射量等を計測
- 家庭エネ：スマートメーターのデータ解析
- 風力＆業務、水力＆運輸、バイオマス＆産業

エネルギー技術の望ましい導入の仕組みや導入方法の探索

- 「環境システム学実地演習」の実施
- 国内地域新電力やシュタットベルケのヒアリング・文献調査



町内に設置した気象計測器

「関係人口創出プログラムの提案」のための交流体験を実施。①郷土料理教室・農家ステイ体験の提案、②大学生向け観光モデルコースの提案、に取り組む過程での心理的行動変化の記録・評価を行う。

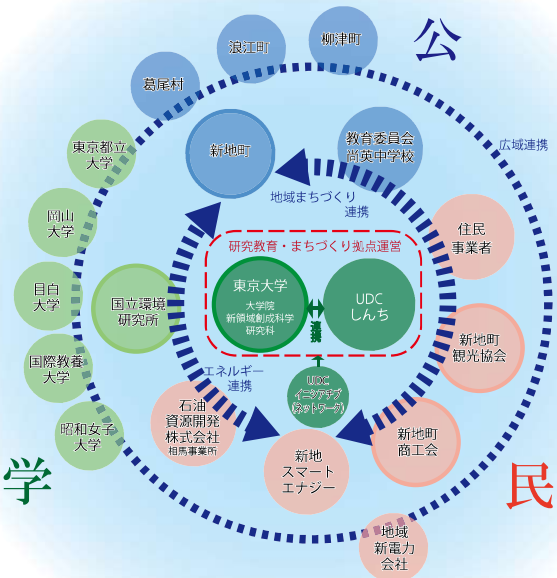
食 × 観光の教育活動 WG



新地町立尚英中学校 WG

大学の研究を活用した地域教育を実践。「新地町の環境・エネルギーまちづくり」をテーマに、中学校の環境学習と連携して実施。

公・民・学共創の拠点 UDC しんちをプラットフォームとした連携体制



4つのグループ・テーマの研究・教育事業 各グループが連携・関係者と共創の WG 「広報しんち」で毎月活動内容を報告

事業Ⅳ

新地高校プロジェクト： 地域での「学び」から持続可能な地域を考える

旧・福島県立新地高校は、R4 年度より相馬総合高校に統合され、在校生は R5 年度までは現校舎で学び続ける。新地校舎に通う生徒を対象に、様々な仕事や企画を生み出している大人たちを先生として招き、地域で暮らすことについて伝える。

特別授業の様子



地域活動デザインスタジオ

学生が地域に入り込み、地域が抱える課題を明らかにし、その解決のための提案をグループワークにより練り上げ、地域住民に提示する。提案にもとづき地域住民とさらに議論を重ね、学生と地域住民が協働して、まちづくり活動の実践を行う。

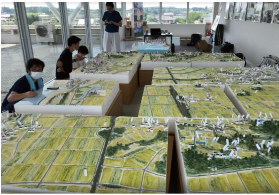


ワークショップ

環境情報学実習

模型のデジタルアーカイブ化

新地町の被災前のまちの様子と町民の記憶が表現されており、「失われた街 模型復元プロジェクト」として H28 年に製作された。模型に記録された情報をデジタル保存する。



デジタルアーカイブ作業

情報環境デザインスタジオ

福島県浪江町の帰還困難区域の住民の疎外感を和らげる作品の提案に、メディア表現を用いて取り組む。



2016年春から24時間365日運用中

新地町の魅力発信 WG

新地町や観光協会等と連携してマップ作成や魅力情報発信のツール等について検討し、大学の活動成果を編集して、UDC しんち等で情報発信を行う。



映画『新地町の漁師たち』

東日本大震災と原発事故で被災した、新地町の漁師のその後を追ったドキュメンタリー（監督：山田徹、2016 年）。震災以降のこれまでの歩みを理解するため学内で上映会を実施。

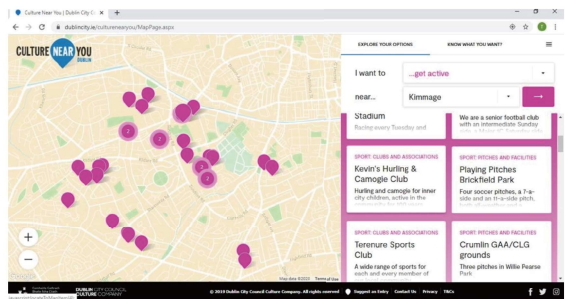
事業Ⅱ

観海タウンにおける 環境エネルギーまちづくりの促進と定着化

住民から見た「観海タウンのまちづくり、環境エネルギー」とは？住民ヒアリングや住民同士の議論を通して、新たな町の文化的アイデンティティを発見・創造し、まちづくりの促進と定着化につなげる。

カルチュラルマッピング

コミュニティの独自性やアイデンティティを理解するために有形・無形の文化資源を洗い出す



Web 上に構築するインタラクティブマップ

今年度までの課題

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うオンライン化の影響で、前身の事業期間を通して培った活動対象地域における直接的な「つながり」が希薄となった。この地域コミュニティとの関係性再構築に注力しつつ、オンライン活動の実践によって得た知見を活かし、ポストコロナを見据えた新たな形のまちづくりを検討する。

3 年目事業内容 取組方向性

各プロジェクトは、過去 2 年度の振り返りをとおして、活動内容の修正をおこないつつ、これまでの実績と経験を存分に活かして、事業内容をいっそう深化させ、地域の多様な主体との連携を強化する。また、地元自治体の協力のもと、地域広報誌や、SNS 等を利用した活動の可視化を積極的に展開し、対象地域の事業へのさらなる理解と、地元住民のプロジェクトへの自発的な参加を促進するとともに、関係人口の拡大を図る。

事業責任者：出口敦（研究科長） 実施統括者：徳永朋祥（副研究科長）

事業担当者：吉田好邦（工学系研究科・技術経営戦略学専攻教授） 小林博樹（社会文化環境学専攻教授） 井原智彦（環境システム学専攻准教授） 小貫元治（GPSS-GLI 准教授） 寺田徹（自然環境学専攻准教授） 吉田葵（特任研究員） 池田晃一（特任研究員） 池田泉（学術経営戦略支援室シニア URA） 杉本久美子（URA） 以上、東京大学大学院新領域創成科学研究科 工藤尚悟（国際教養大学 准教授） 土屋依子（目白大学 講師）